

2023年4月28日

本日の原子力空母Rレーガンの原子力空母Gワシントンへの交代に抗議するコメント

原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会

共同代表 弁護士 呉東 正彦

1、本日、外務省は横須賀市に対して、現在米海軍横須賀基地を母港としている原子力空母Rレーガンを、米国が2025年をめどに、原子力空母Gワシントンに交代させる方針であると伝えた。

このことは、米海軍による原子力空母の横須賀母港の恒久化に繋がるものとして、強く抗議し、撤回を求める。

2、原子力空母は電気出力で20万キロワットの原子炉を2基積んでおり、人口約38万人の横須賀市中心地に年間半年近くおり、危険な原子炉の修理作業も行われている。

本年は関東大震災100年を迎えるが、いつ起こるか分からない大地震で横須賀と原子力空母が地震と津波に襲われて、東日本大震災で、福島原発が放射能事故を起こしたのと同様に、原子力空母の原子炉も、メルトダウン、水素爆発を起こして、横須賀市がさらに東京など首都圏一帯が放射能汚染の被害に見舞われかねないことを決して忘れてはならず、今回の交代は、この危険な原子力空母の横須賀母港を、さらに長期化しようとするものである。

3、また日本周辺での戦争の危険も無視できない現在、母港の継続は、一旦集团的自衛権によって戦争が起こった時、原子力空母の母港の継続は、横須賀にいる原子力空母が攻撃を受けて、原子炉から放射能が放出されたり、日本周辺で先頭によって破壊された原子力空母の原子炉が放射能を出したまま横須賀基地で修理される危険をも招きかねないものである。

4、私たちはこの市民の安全を脅かす、危険な原子力空母母港の恒久化に繋がる交代に抗議し、2025年をめどに原子力空母の母港を撤回することを強く求め、かつて母港前に広がった母港反対運動と同様に、今こそ母港の撤回を求める市民的、国民的運動を起こしていきたいと考えるものである。